

## 放課後等デイサービス自己評価表

実施日:平成29年 4月 17日

		チェック項目	はい	どちらとも言えない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			その日の利用者構成により、活動エリアの環境を変えている。また、ホールや他部屋の使用など、特性とニーズに合わせて活動場所を提供するようにしている。ひとり一人に合った活動エリアを作れるように、日々話し合っている。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			配置基準では、児童発達支援管理責任者1名、支援員2名の人員配置基準となっているが、児童発達支援管理責任者1名、支援員4名を配置している。支援員4名のうち2名は、保育士・幼稚園教諭二種免許を有している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか			○	知的・発達障害を主な対象児として、運営規定に定めている。事業所にはエレベーターはない。小学1年生～高校3年生までが対象となり、洗面所、机、椅子、トイレのサイズが体格に合わない場合がある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			毎日の振り返りには、職員全員が参加している。
	5	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につながっているか	○			保護者向けサービス評価表は、H27年度より毎年1回実施している。面談時や帰りのお迎え時、連絡帳等にて、保護者の意向の聞き取りをしている。苦情や相談については、窓口担当者、解決責任者、第三者委員をおいて対応している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			H28年度より、自己評価及び保護者向け放課後等デイサービスの評価表(集計)を公表している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			法人内研修の他に、高知県社会福祉協議会や療育福祉センター、高知県知的障害者福祉協会が開催する研修に、臨時職員も含め、広く参加している。

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか		○	発達検査などフォーマルなアセスメントができる資格を持った職員はいない。発達検査の所見を参考に、放課後等デイサービス計画の作成や日々の支援に役立っている。障害児支援計画に基づき、放課後等デイサービス計画を作成している。担当者会の内容は、振り返りの時間に情報を共有し、担当者会の議事録は回覧している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○	ケース会等で、フレームワークを活用した自閉症支援(水野)「自閉症特性解説の手引き」を活用しているが、全利用者を対象に実施はしていない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか		○	朝の話し合いでは、その日の利用者構成と送迎時間を見て、活動内容を決めている。最終的には、利用者に聞いて参加する活動と担当する職員を決めている。またその時の様子を、振り返り時に職員間で共有している。職員は固定せず、ローテーションして活動を担当するようにしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○	平常時は、宿題一おやつ一遊びの流れで、長期休暇時は、プール(夏季)や公園へのドライブ、調理、買い物、図書館、公共施設への外出などを行っている。活動のバリエーションは増えてきている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め細やかに設定して支援しているか		○	11同様
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか		○	11同様
	15	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○	11同様
	16	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○	勤務ローテーションの関係上、次の日になるが、利用した全利用者の様子を、支援記録とともに振り返り、次回の手立てまで話し合い、修正を繰り返している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○	日々の振り返りでは、支援記録をもとに話し合いをしている。話し合いで出た特記事項は加筆するようにしている。児童発達支援管理責任者は、記録を毎日チェックして、月末には加算等を含め、サービス提供実績票と照らし合わせている。支援記録は、放課後等デイサービス計画の内容の中で、排泄等のADL面や宿題の様子、友達関係など、ひとり一人の発達課題に応じたポイントを記載できるように、チェック表も用いている。

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか		○	12にある活動を行っている。他の社会福祉事業や地域において行われている学習・体験・交流活動には参加していない。平成30年度に向けて、平成29年度は準備をしていく。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		児童発達支援管理責任者が出席している。担当者会議の時間が、学校の時間に合わせて放課後に設定されることが多いので、児童発達支援管理責任者が参加している。担当者会の内容は、議事録と振り返りの時間に職員間で共有している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時間の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○		保護者を介して、行事や送迎時間等の情報を得ている。香美市教育の日を活用して、学校での様子を見学し、日々の支援に活かしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医と連絡体制を整えているか		○	医療機器を使用している子どもの受け入れ、特別な医療ケアが常時必要な子どもの受け入れは行っていない。服薬管理は、処方箋と保護者の依頼に従っている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○	相談支援事業所が入るようになり、利用開始前には担当者会議が開かれるので、そこで情報を得ている。児童発達支援事業所が少ないのでどちらも言えない場合がある。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から、障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容の情報を提供しているか		○	事業所内の引き継ぎ書を毎年年度末に作成し、引き継ぎ書をもって情報提供している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		療育支援センター主催の研修には参加している。児童発達支援センターや発達障害支援センター等の専門機関が助言にくる支援会議には必ず参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもとともに活動する機会があるか			○	平成30年度実施に向けて、平成29年度に準備を行う。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		地域自立支援協議会等から要請があれば参加する。支援会議やケア会議には必ず参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		他事業所と比べて、帰りの送迎サービスを行っていないので、その分お迎えの際に保護者と話をする時間取りやすい。	
	29	保護者の対応力の向上をはかる観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○	療育福祉センターが主催するティーチャーズ・トレーニング研修に、平成28年度1名参加。平成29年度は2名の参加予定。研修体制を整えている。	

	30	運営規程、支援の内容、利用者負担額等について丁寧な説明を行っているか	○			利用契約の際に説明し、運営規程等は事業所に掲示してある。利用に関して不明なことがあれば、児童発達支援管理責任者が説明を行うようにしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			個別支援計画面談時以外でも、保護者から要望があれば相談する時間をとっている。お迎えの際には、保護者からの相談を聞き、次の日の振り返りの時間に職員間で話し合い、何かしらの返事ができるようにしている。
保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情対応の窓口は、重要事項説明書にのせ、事業所内にも掲示している。苦情については、児童発達支援管理責任者一管理者に報告している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月「ウィッシュだより」を発行するようにしている。その他、法人機関紙を発行している。
	35	個人情報に十分注意しているか			○	玄関靴箱の写真、引継ぎノート等、改善する部分がある。支援記録は、見えないようにしている。個人情報使用同意書は、全利用者を対象に実施している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか			○	連絡帳と迎え時に様子を伝えている。学校や家庭での様子の聞き取りを行っている。利用希望表により、利用を調整している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	ウィッシュ文化祭を行っている。地域で行われている防災活動や清掃活動には職員が参加している。
非常時等の	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			各種マニュアルは策定しており、各フロアにファイルを置き、いつでも職員が確認できるようにしている。防災マニュアル、BCP（事業継続計画）、風水害・土砂災害避難マニュアルを作成している。感染症など必要に応じて学習会を行っている。保護者がマニュアルを閲覧できるようにはなっていない。防災関係のみ事業所内に掲示している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか			○	高知県社会福祉施設防災対策指針に基づき、年4回避難訓練を行っている。その他、平成29年度からは、BCP（事業継続計画）に基づき訓練を行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			法人内、事業所内、事業所外での研修に参加している。

対応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか		○		行動制限ガイドラインを定め、それに従っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○		利用開始時の聞き取りにおいて、アレルギー等の医療情報を確認している。基本、お弁当とおやつを持ってきてもらい、事業所が提供する食事は、調理活動のみとなっている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○		報告書が上がれば、リスクマネジメント会議を開いている。事例数がまだまだ少ないので、どちらとも言えないに○を記入した。



